

講座

3

アメリカ経済（過去・現在・未来）—パックス・アメリカナの盛衰の視点から

オンライン併用

【会場定員】144名 【オンライン定員】100名 【受講料】2年会員13,380円 1年会員15,060円 聴講生20,080円

『政治・経済・社会』経済 【時間】 毎回13時00分～14時30分（計12回）

概要

アメリカは、第二次大戦後の世界政治経済秩序の確立を主導し（＝パックス・アメリカナ）、世界経済をリードしてきた。本講義では、パックス・アメリカナの盛衰という長期歴史的な視点に立って、その経済発展構造の特質と現状を総合的に解明し、「トランプ現象」を含め、日本経済・世界経済の動向の現状の理解に不可欠なアメリカ経済の今と今後を論じる。

回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	10/ 4(金)	川崎市 生涯学習 プラザ	序論 アメリカ経済を学ぶ意義と基本視点 初期の経済発展	法政大学名誉教授 河村 哲二
2	10/11(金)		工業・農業発展と国民経済の確立（南北戦争～第一次大戦まで）	
3	10/18(金)		第一次大戦と1920年代（「永遠の繁栄」と「大恐慌」）	
4	10/25(金)		「大恐慌」とニュー・ディール	
5	11/ 1(金)		第二次大戦の戦時経済と戦後「持続的成長」の構造の出現	
6	11/22(金)		「持続的成長」の経済構造の特徴と内在する諸問題	
7	11/29(金)		「持続的成長」の終焉とアメリカ経済の転換（1980年代）	
8	12/ 6(金)		企業・金融・情報のグローバル化と政府機能の新自由主義的転換	
9	12/13(金)		「グローバル成長連関」の出現と1990年代のアメリカ経済	
10	12/20(金)		アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機とその衝撃	
11	1/17(金)		金融危機・経済危機後のアメリカ経済とその課題	
12	1/24(金)		アメリカ経済の変貌（まとめと展望）	